

令和7（2025）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 7月1日 / 年度末 2月27日
氏名	井上 勝
国文学科	准教授
学科以外の兼務職	図書館長

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅠ（初年次教育）	国文	1
基礎力プログラムⅡ	国文	1
情報資源組織論	国文	1
情報資源組織演習Ⅰ	国文	1
情報資源組織演習Ⅱ	国文	2
情報サービス論	国文	1
情報サービス演習Ⅰ	国文	2
情報サービス演習Ⅱ	国文	2
図書館サービス概論	国文	1
ボランティア	国文	2
学校図書館メディアの構成	子ども	2

②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

③委員会活動

委員会名	委員	所属委員会	委員
運営協議会	委員	SD委員会	委員
研究倫理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理委員会	委員	入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	委員
図書委員会	委員長	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	委員長
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	委員

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会名	WG名	学内代表
協議会会員	WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）	学内代表
協議会事務局	WG-B（地域コミュニティの活性化事業）	学内代表
WG-D（事業管理）学内代表	WG-C（地域を担う次世代人材の育成）	学内代表

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 学生の学習と大学生活の両面を中心に、学生支援に注力する。
個人の教育理念・目標	基本的な姿勢として、本学の教育理念、建学の精神に基づき、個々の学生が社会人として、また、職業人として、調和のとれた人間形成を行っていくための支援を確実に行っていく。 滋賀県内で唯一の司書養成課程を持つ本学への社会的要請に応えるべく、県内及び周辺地域の図書館と情報を密に、連携を進めるとともに、現場で求められる司書となるべく、実務的な能力を身につけるとともに、困難に直面したとき、適切な判断ができるよう、よって立つべき基本的な考え方、理論も伝えていく。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	司書養成のための司書資格に関する授業において、基本的な理論を伝えていくに際して、30年余の実務経験を踏まえ、現場ではそれらをどう展開し、活かしていくのかを説明し、自身が実際に図書館現場に立った時、どのような司書でありたいか、どのような図書館としていきたいかということ年間に2～3回考えて文章化させた。また、本を読むこと、公立図書館を見学することや、本屋・古本屋を訪れること、展覧会やコンサート等の文化事業に参加することを勧め、基本データをまとめることやその感想を文章化することを行わせた。 私自身が滋賀県・福井県・岐阜県・愛知県などの図書館をできるだけ実際に訪れ、施設や実際に行われている図書館サービスを確認し、インターンシップや図書館見学の受け入れが可能か等について調査を行い、それらの情報を授業等において学生に還元した。
授業以外 （学生支援等）	学校生活になじめない学生、慣れない1人暮らしや、授業を受けることに困難を感じている学生から具体的に困っている事を聞き取り、問題点をときほぐしながら、学生に寄り添い、その困難を一つ一つ解決すべく話し合った。 就職活動について、図書館司書の採用を中心とした情報を提供するとともに、地方公共団体の受験、図書館司書の採用試験等に際して、書類の書き方、面接時の答え方等を模擬的な形で行う等実践的な対応を行い、受験時の不安感をやわらげるようにアドバイスを行った。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	学生の授業理解、図書館サービスの実際像の構築において、理論のことばだけでは、入っていきにくい知識を具体的なことがらとして整理し、実感として受け入れることにより、徐々に、具体的なイメージを伴う図書館司書像を描けるようになっていった。 学生自身の中での司書像を、より上手に文章化できるようになっていった。 結果的には、滋賀県内の図書館2館で各1人、計2人ではあるが、図書館でのインターンシップを実施することができ、地域の図書館をより身近に感じ、図書館で働くイメージをより具体的に持つことができるようになっていった。
授業以外 （学生支援等）	すべての授業において、すべての学生が溶け込むことは残念ながらできなかった。結果的に、学校生活に馴染めないことによる不登校、退学者が出てしまった。また、特に1年生の授業出席状況は芳しくなかったが、出席不足による単位未取得という事態は避けることがで

	<p>きた。</p> <p>就職活動においては、昨年度に引き続き、現役生に、図書館司書の専門職採用される学生があった。また、正職員採用には至らなかったが、正規職員を目指し、図書館現場で、会計年度任用職員として、採用された学生もいた。</p>
--	--

5. 目標 (今後どうするか)

授業	<p>2年生の授業のみとなる来年度、昨年度及び今年度同様、1年生で積み上げてきた図書館および、司書についての知識をより深め、また、実践的なものとするべく、演習的な要素を増やし、ディスカッションや発表というアクティブな学びの要素を加え、現場での対応力をつけるための図書館現場の情報を授業で活かせるように、現物の提示や映像によるイメージ化等、より工夫を凝らしていく。</p> <p>私自身が、学生の出身地及び、その周辺の図書館を、昨年度及び今年度同様に、引き続き訪問し、学生と実際の図書館の施設、サービスについて語り合えるようにしていきたい。また、気軽に現場の情報を尋ねられるような関係を築ける図書館を増やし、その情報を学生に提供し、実績を積み重ねていきたい。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>今年同様、学生に寄り添い、学生生活に支障が出ないようにサポートしていくと共に、私自身も支援する力のスキルアップのために研修受講等の自己研さんに努めていきたい。</p> <p>具体的には、学生が、社会にでていくためのサポート、就職支援につとめたい。公務員採用、図書館司書の採用に関する情報収集につとめ、今年度まで同様に、書類作成のアドバイス、模擬面接を行う等、より実務的に今までの私自身のキャリアを活かした就職サポートに努めていきたい。</p>

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上